

発行所 広島県自治体労働組合総連合

〒730-0051 広島市中区大手町4丁目2-27中央レジデンス405号

TEL 082-243-9240/E-mail hjrouren@urban.ne.jp

FAX 082-243-9241/ホームページ http://urban.ne.jp/home/hjrouren/

編集・発行 広島自治労連教育宣伝部

定価 1部10円 組合員の購読料は組合費に含まれています



組織を拡大し、
組合員主役の運動を!

大幅賃上げと公務公共の拡充を 軍拡反対! 地方自治を守る!

2月23日(金)、広島自治労連第68回中央委員会をロードビルにてオンライン併用開催し、中央委員は会場15名、オンライン14名、傍聴6名と執行部18名が参加しました。

全国自治研in広島 開催を目指して

平松執行委員長は挨拶の中で、春闘での賃上げ要求満額回答など労組への風向きが変わってきたことに触れ、集まることで繋がりを感じ、賃上げや人員不足解消に向けて組合としての力を強めるとともに、今年10月の名古屋自治研に参加し、2年後広島で開催予定の全国自治研も盛り上げようと呼び掛けました。

住民の繁栄と 私たちの処遇改善を

浜崎書記長がパワーポイントを活用し、活動経過報告と春闘方針提案が行われ「地域住民の繁栄こそが公務公共労働者の幸せであり、そのためにどうあるべきか」を考える視点の重要性を訴えるとともに、ジェンダー平等推進や非正規労働者の処遇改善、災害に備えた公務公共体制の充実という具体的取り組みを提案しました。

また、木下組織部長の行動提起では、定年延長が導入される今年を増勢のチャンスであり、仲間を増やして待遇改善を勝ち取っていかうと呼び掛けました。

質疑・討論では 8名から発言があり、欠

員の早期解消や非正規の処遇改善、定年延長や指定制の問題などが挙げられました。

本日に必要な 予算の確保を!

総括答弁では、様々な問題解決のためにも、必要な公共事業が見直され、本日に必要な部分への予算確保が行われるよう訴え、活動する必要があるとまとめ、提案は全て採択され終了しました。

中央委員会では現場の奮闘ぶりや問題を訴える声があがりました



... 広島自治労連春闘学習会 開催 ...

2月9日(金)オンライン併用で、「同一労働同一賃金の実現で、安心して働き続けられる職場へ」をテーマに広島自治労連春闘学習会を開催し73名が参加しました。

講師の自治労連本部の嶋林賃金権利局長は、自治労連は全国統一闘争「3Tアクション」へつながる「つづける・たちあがる」の取り組みで政府総務省をも動かし、2023秋闘では会計年度任用職員の4月遡及、令和6年度からの勤勉手当支給を勝ち取れたと報告。その中で自治労連単組がある自治体では6割が勝ち取れたことを強調し、自治労連の真価が問われる闘いであったことを確認できました。

指定管理者制度の闘いでは、地方自治法244条に照らし、指定管理者制度の目的は「住民福祉の向上」を明記しているため、自治体の責任でそこで働く労働者のあるべき姿を要求し、かつ民間労働者に適用される「パート有期労働者法」「労働契約法」「ストライキ権を含む労働基本権」「最低賃金法」等を労働者に有利になるよう活用しようと呼びかけられました。

最後に、住民を主人公に「三方良し」へ職員良し、当局良し、住民良しを交渉で訴えようと呼びかけられました。

嶋林局長の講義に熱心に耳を傾ける参加者の様子



新規採用者に組合加入呼びかけて 広島ドラゴンフライズ 試合観戦へGO!

観戦日

4/21(日)

14:05試合開始

広島サンプラザホール



職場に新規採用職員が
配属されたら、組合に誘おう!

新採が組合加入したら先輩・新採とともに
「広島ドラゴンフライズ」の試合観戦に

1人500円でご招待(40席限定)

スポーツ観戦で、親睦を深めましょう!

詳細等は後日お知らせします。

変えようヒロシマ！ 平和・くらし・私たちの街 第33回ヒロシマ地域総行動



写真上：早朝「春闘ビラ」配布
新白島駅に13名参加

2月22日は終日、春闘の山場「ヒロシマ地域総行動」が展開され、広島自治労連からも積極的に参加しました。



写真上：広島労働局要請
最賃引上げ、ハラスメント法改定等を要請
写真左：昼休みデモ



街頭宣伝で訴える広島市児童館労働組の加藤執行委員長



医療を守り、地域経済も活性化へ

第67回はたらく女性の広島県集会在2月18日(日)午後、オンライン併用でロビールにて開催され、119名が参加しました。当日は、ストレッチャや職場交流もあり幅広い学びとなりました。記念講演では、講師のNPO法人医療制度研究会の本田宏理事長が「ケアが大事にされる社会へ」の社会へ医療・介護・福祉・くらしの現場から見えるもの」をテーマにお話されました。

講演に先立ち、短編映画「公的医療はどこへ行く」が上映されました。日本では、医療・介護・福祉抑制策で、保健所の削減、公立病院の独立行政法人化などが行われてきました。そして現在も、更なる病院の再編統合が行われています。世界の国々比べて日本は医師・看護師が不足しており、この状況を変えることができれば、地域の医療を守ることが出来ます。そして、病院があれば地域経済も活性化します。人々のライフラインとなる病院を守るため、私たちは自分で考え、声を上げていくことが大切です。医療だけでなく、教育やマスコミの課題も含め、多方面で考える機会となりました。



公的保育の拡充で

全体会の参加者

第32回自治体保育労働者の全国集会

すべての子どもにもより良い保育を

2月24日(土)・25日(日)、第32回自治体保育労働者の全国集会in静岡がオンライン併用で開催され、両日でのべ500人を超える保育者が参加しました。1日目の全体会は、静岡県内の保育士たちによる「まるちゃん静岡音頭」を披露し、和やかな雰囲気ですたーとしました。

日本はカリキュラム化された保育なのか

記念講演は、福島大学名誉教授の大宮勇雄氏が「子ども・実践・保育運

動を根本から考えるー未だ来をひらく変化を作りだすために」というテーマで、日本の保育現場の過酷さやカリキュラム化された保育の問題点などを諸外国と比較しながらお話されました。

ニュージージーランドの保育から組合の重要性を再認識

来年は広島市で開催が決定しており、広島市職労保育園支部が広島にちなみ「アピール」を行い、「広島にきんさい！」と来年の参加を呼びかけました。2日目は、労働条件を守る運動や公立保育園を守る運動、会計年度任用職員の処遇改善の運動などの1つの講座と4つの分科会が行われました。

さあ！来年は「広島市」で開催

ことなど、組合の重要性も再確認できるお話でした。



広島市職労保育園支部がアピール

全国各地の保育情勢の交流を通して、公的保育を拡充させ、すべての子どもにより良い保育が提供できるよう自治体保育労働運動の重要性を確認しあえた二日間でした。

自治労連共済からお知らせ

- 1) 退職選別金
3月が近づき、退職の時期となりました。これまで長い間、お世話になりました。組合員さんには自治労連共済から選別金をお渡しいたします。
 - 2) 組合員の子供が小学校に入学
4月に小学校に入学する子どもさんがいらっしゃる組合員さん、おめでとうございます。入学お祝い金をお渡しいたします。
 - 3) 55歳お祝い金(2023年4月の制度改定で加わりました)
2023年4月1日以降に満55歳を迎えられた組合員さんにお祝給付をしています。
- ★給付申請、お問い合わせは各単組の共済担当者または広島自治労連の共済担当・秋山までお問い合わせ願います。
Tel 082-243-9240/email hjrouren@urban.ne.jp

